

研究をするための視察を行っています。

景を学び、会派の枠を越え委員全員で認識を共有する意義があります。視察後は委員全員で調査内容を議論、評価し報告します。

報告書の全文は、3月末に多摩市議会ウェブサイトに掲載します。市内図書館や行政資料室でもご覧いただけます。

認知症の方とそのご家族に対して、行政・議会・地域として何が支援できるか

健康福祉常任委員会

四日市市認知症フレンドリー宣言等について

多摩市は、多摩ニュータウン開発時に居住された方が多く、2025年には高齢化率が30%を超え、認知症対策は喫緊の課題です。四日市市は、高齢化率が2023年4月の時点で26.1%と多摩市よりまだ低いものの、今後の高齢化に向けて、多様な認知症施策を展開しています。

四日市市は「認知症があっても、日常生活や社会生活が不自由なく送れる地域・社会」をめざし「四日市市認知症フレンドリー宣言」を行い、以下の事業を実施しています。

- ①認知症高齢者見守り支援事業（認知症高齢者等安心おかせりシール交付事業・認知症高齢者あんしんGPS給付事業・認知症高齢者等あんしん保険事業）の実施
- ②四日市市介護予防等拠点施設「ステップ四日市」にて認知症に関する情報発信・相談、認知症の人や家族の交流・活動、認知症の人や介護者を応援する人材の育成
- ③介護サービス相談員の活用
- ④認知症フレンズの地域での活動支援や、地域のスーパーの「おもしろレジ」設置等の官民連携も行っています。

三重県四日市市

今後、多摩市でも、認知症になっても自宅で安心して生活を続けられる支援体制の整備は必須です。

四日市市の認知症施策を参考に、多摩市でも実施可能な施策を今後どう取り入れていくか、官民連携なども視野に入れた検討が必要です。



おおふ 大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例について 愛知県大府市

人口約9万2千人の大府市では、認知症になっても住み慣れた地域で不安なく生活できるようにと認知症サポーターが2万人以上おり、見守りネットワークが地域ぐるみで根付いています。

その背景には、過去に市内で認知症の方が鉄道の線路内に進入し、死亡事故が発生してしまったことが大きく影響しています。

そうした事故を受け、認知症の方に個人賠償保険制度への加入も促進し、年額2,200円の保険料は市で負担しています。また、「徘徊」という言葉は使わず、本人なりに理由や目的があって出歩いているとして「ひとり歩き」と呼んでいます。

こうした認知症への理解や対策は、「誰でも住みやすい街づくり」の礎となっており、「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例」が策定されています。

- ①認知症に対する正しい知識を持って、本人及び家族の視点に立って取組むこと
- ②誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現
- ③相互連携

多摩市でも、認知症サポーターの養成などに数値目標を持って取組んでいきたいと思っています。

